



歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2021」へのご協力 ありがとうございました

10周年の節目を迎えた2021年度は、過去最多の2,252名のご参加をいただき、当初の目標歩数であった2億7,000万歩を大幅に超え、833,559,995歩まで到達することができました。

「好きな時間、好きな場所で歩く」では、コロナ禍でもオンラインでつながりながら気軽に国際協力と健康増進を図ることができる取り組みとして、個人および企業の社員の皆さまなど幅広いご賛同を得て、昨年度の2倍を超えるご参加をいただきました。また、新たに国際協力の学生団体とも連携することで、大学生を中心に、多くの学生参加も促進することができました。

加えて、新型コロナウイルス感染拡大により一部イベントの中止も余儀なくされる一方、九州限定オンラインイベントや富山県、岩手県、都内など各地での自主企画イベントの開催が実現。創意工夫を凝らしながら、様々な形でこのキャンペーンを広めることができました。

このように、多くの皆さまと一緒に、水汲みのために歩かなければならない女性や女子たちに思いをはせ、彼女たちの力になろうと連帯できたことをうれしく思います。参加者の皆さま、ご協賛企業の皆さま、またキャンペーンを応援してくださった全ての皆さまに、心から感謝を申し上げます。

そして、来年も、3月8日国際女性デーから、11回目のキャンペーンがスタートします。来年に向けて、これまで以上にお楽しみいただけるよう準備してまいります。皆さまに、また笑顔でお会いできますことを心待ちにしております。

(マーケティング部 神)



5月9日にガールスカウト富山県連盟が実施した自主企画の一コマ。イベント内で、実際に水を運んで、水の重さを体感する参加者。

離れていても一緒だね！
岩手と群馬をつないで
ディスカッション。



CAREの「C」の写真を投稿してキャンペーンを拡散するために2,891枚もの投稿をいただきました！

編集後記



東ティモールの駐在員が交代しました

●これまで15年以上、アジアやアフリカなど7か国のNGOのフィールドで開発事業や人道支援に従事してきました。2006年から2009年までの3年間は東ティモールで働いていました。再び、東ティモールの人々とともに働くことができて、とても嬉しいです。これまでのいろいろな国やプロジェクトを通して学んだ知識や経験を活かして、農業用水改善事業に貢献できるようがんばります。
(伊藤洋子)

●先日、1年(!)ぶりに同僚と事務所で再会。定期的にビデオ会議で会っていたので、こんなに時間が経っていたことに驚きました。この1年、CAREは、支援を届けるために新たな手段を模索し続けました。バーチャルで事業地を視察したり、現地での事業パートナーシップを促進したりする動きが始まっています。もうしばらく、物理的距離を保たなければなりませんが、工夫を重ねて、皆さまのあたたかいお気持ちを現地に届けていきます。(甲斐)

個人支援者専用ダイヤル TEL:03-5499-9931

CARE アクションする



公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階
TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375
E-mail:info@careintjp.org Website:www.careintjp.org
Facebook:www.facebook.com/CAREjp Twitter:https://twitter.com.CAREjp

※小誌へのご意見、ご感想を募集しています。
発行元までお寄せ下さい。

※このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREの
デザインボランティアの会田ひとみ様のご協力により、制作されています。



CARE World

Vol.41 ケア・インターナショナル ジャパン Newsletter June 2021



ケア・インターナショナル
ジャパンは、世界100ヶ国
以上で人道支援活動を行う
国際NGOケア・インター
ナショナルの一員です。
災害時の緊急・復興支援
や「女性と女子」の自立
支援を通して、貧困のない
社会を目指しています。

Contents

- page 1 タイ：理数系教育を通じた
リーダーシップ育成事業
- page 2 新型コロナウイルス感染症緊急支援事業
- page 3 東ティモール：農業用水改善事業
- page 4 歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2021」

タイ：理数系教育を通じた リーダーシップ育成事業(第2期) ～支援対象校を9校から16校に拡大～

3年におよぶ第1期を経て、2020年4月より、引き続き日産自動車(株)のご支援のもと、タイの中高生を対象にした教育支援を展開しています。コロナ禍で2度にわたり全校の休校措置や国内移動制限などが敷かれる中、活動計画の見直しや実施方法の変更などを繰り返しながらの1年間となりました。

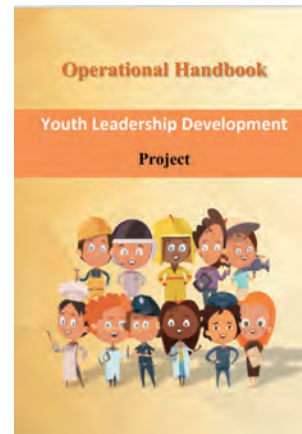
コロナ禍でも工夫して活動に取り組む

主要活動の1つであるリーダーシップ育成キャンプ等のイベント開催がすべて次年度へ延期となる一方で、生徒たちは、新たな日常に戸惑いながらも、校内での起業体験活動が続けたいという熱い想いのもと、限られた登校日の早朝やランチタイムの時間を活用して、パンやお菓子の製造販売などの起業体験活動を継続。教師の理解とサポートのもと、創意工夫を凝らし活動に取り組んでいます。



▲第1期に起業体験活動に参加した生徒から、パンの製造方法を熱心に聞く後輩たち

CAREは今年度、そのような学校での活動の継続を支えるべく、教師向けの活動実施マニュアルをとりまとめました。これにより、例えば、担当教師が他校へ転勤した場合でも、スムーズに後任へ



◀第1期からの課題であった起業体験活動の「持続性」を担保するために、教師向け活動実施マニュアル「Operational Handbook」が完成

と引継ぎがなされ、継続して生徒たちの活動を支えていく体制が維持されることが期待されます。さらに、教師を対象に、生徒たちが能動的かつ実践的に学ぶアクティブ・ラーニングやSTEM教育(科学・技術・工学・数学の4分野の横断的学習方法)などについて学ぶ研修を企画。2日にわたって、参加人数を制限して実施しました。

この1年間で、延べ809人の生徒たち(うち438人が女子)と159人の教師が活動に参加しました。

政府機関、地元企業、専門家、そして 地域の人々などの参加協力に支えられて

第2期より、日産自動車の工場があるサムットプラカーン県において、新たに支援校を3校選定した他、アユタヤ県とラヨーン県それぞれ2校ずつ対象校を拡大。これからも、タイ日産の社員の皆さまをはじめ、たくさんの協力者と協働して本事業を進めていきます。



▲タイ日産より提供されたマーケティングに関する研修動画で学ぶ生徒たち



新型コロナウイルス感染症緊急支援事業



CARE は、新型コロナウイルスの世界的大流行をうけ、グローバルな連携と連帯のもと、このウイルスへの対応を優先して一致団結して取り組んでいます。

 安全な水の提供 320 万人	 衛生用品の配布 (石鹸、手指消毒、生理用品など) 270 万人
 栄養価のある食糧の配布 (外出規制措置や失業により栄養不良の恐れのある人々を対象) 220 万人	 現金やクーポン券の配布 (最も必要なものを自由に購入し、地元経済を支援) 689,000 人
 マスメディアを通じた感染予防と医療提供についての情報発信 2 億 1,600 万人	 ジェンダーに基づく暴力の予防と保護 230 万人



インドでは、職を失った出稼ぎ労働者が帰省し、地元で感染拡大を生じさせないよう、都市部に留まれるための食糧や衛生用品の配布を行っています。



世界的なワクチンの供給と接種を支援

日本では、医療従事者に続き、高齢者を対象に始まったワクチン接種。CARE は、現在、世界で最もリスクの高い女性や最前線の医療従者にワクチンを届けるべく、資金、要員、そして専門性を総動員しています。

特に、公的な医療機関が脆弱な国や地域において、ポリオ撲滅への取り組みに遡る 20 年以上のワクチン事業の経験を活かして、複雑なワクチン輸送や効果的な接種促進に向けて支援を行っています。また、見過ごされやすい現場の助産師や保健ボランティアなどの医療従事者（その多くは女性たち）の声をすくい上げています。そして、これまで築き上げた地元のネットワークを活用して、ワクチンについての誤解や偏見などを是正するための啓発活動なども行っています。



緊急募金の経過報告

当財団は、昨年 4 月、日本国内において「新型コロナウイルス感染症緊急支援募金」を開始。2021 年 5 月 31 日現在、12,145,944 円のご寄付をいただきました。足元の日本も大変な状況にある中、遠い国の人々を思い、手を差し伸べていただいたことに対して、心から感謝を申し上げます。

皆さまからのご支援は、これまでの活動や、現在、インドが直面している感染の急拡大への対応、そしてコロナ後を見据えた経済復興に向けた活動に大切に活用させていただきます。引き続き、2021 年 12 月末まで緊急募金を継続して参りますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



最貧困で最大人口の州の一つとされるインドのビハール州のスタジアムを CARE が保健センターに改装。この施設では、100 の病床を確保しています。



世界的に医療施設では、介護者や看護者の約 7 割を女性が占めています。



東ティモール：農業用水改善事業



当財団は、エルメラ県アッサベ郡において、地球にも女性にもやさしい点滴灌漑を使って、貧困削減と女性のエンパワメントを目指しています。

コロナ禍で、首都ディリでは外出規制措置が繰り返し適用される 3 月、ディリと事業地のアッサベの移動は容易ではないものの、5 つの村でオリエンテーションを行いました。

オリエンテーションでは、事業の概要を説明した上で、点滴灌漑を解説したビデオを上映。その後、ジェンダー平等、性に基づく暴力（GBV）、児童虐待についての啓発ビデオも上映し、これらテーマについて話し合う機会を設けました。このオリエンテーションには、農民グループのメンバー以外にも多くの住民が参加しました。また、地域のリーダーや農業省の普及員などの参加も得ました。



オリエンテーションを主導したのはマリオ。▶ジェンダー担当の職員で、いつも鮮やかな色のシャツを着用。それは、「服の色で性別を決めつける必要はないよね」というメッセージを発信するため。ピンクのシャツがお気に入りです。



東ティモール豪雨被災者緊急支援事業



～50 年に一度の豪雨～

4 月 3 日未明からの豪雨により、大洪水や土砂災害が発生。首都ディリとその周辺の低地を中心に、東ティモール全 13 県が甚大な被害を受けました。5 月 4 日現在、全国で 33,177 世帯（189,108 人）および 2,163 ヘクタール（東京ドームおよそ 460 倍の広さ）の農地の被災が報告され、ディリでは、3,125 人の人々が 17 の避難所に一時避難しています。

CARE 東ティモール事務所より、「女性や子どもたちは、災害発生時およびその直後において、平時の 14 倍もの死亡および傷害リスクに脅かされます。特に、今回の豪雨は 50 年に一度の水害といわれており、被害は広範囲にわたり、多くの人々が支援を必要としています」との連絡を受けました。さらに、同事務所のピーター・グットフェロー事務局長は、「今後の緊急支援においては、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて早急かつ慎重に対応することが重要です。新型コロナウイルスの蔓延を防ぐことができれば、もともと脆弱なこの国の医療体制に甚大な影響を及ぼすことになります」と警笛を鳴らしています。

当財団は、4 月 12 日に、「東ティモール豪雨被災者緊急支援募金」を開始。これまでに、2,055,000 円のご寄付をいただきました。あたたかいご支援に心からお礼申し上げます。ご寄付は、現在、現地事務所が中心となって行っている、食糧や緊急支援物資の配布に加えて、避難所での学習雑誌「ラファエック」の配布、新型コロナウイルス感染予防対策（マスクや石鹸等衛生用品の配布）等に有効活用させていただきます。

CARE 東ティモールのディリ事務所や職員の自宅なども床上浸水等被害を受けましたが、職員およびその家族は全員無事でした。▶

